

破碎処理玄米を乾物で 30%混合して調製した 発酵 TMR は泌乳前期で利用可能

海外からの輸入飼料に依存したわが国の酪農経営は、輸入飼料価格の高止まり、世界的な気候変動や新興国の食料需給情勢の変化に大きな影響を受けて極めて不安定となっています。

三重県畜産研究所では、イネ・コムギ WCS および飼料用米の利用率を一層高め、水田の高度利用により生産された飼料作物を活用した発酵 TMR による乳牛の飼養技術の開発に取り組み、破碎処理した飼料用米をトウモロコシおよび大麦の代替として乾物で 30%混合して調製した発酵 TMR は、泌乳前期の乳生産や飼養成績に悪い影響を与えることなく利用可能であることを明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 主たる粗飼料としてイネ WCS を乾物で 25%混合した発酵 TMR において、破碎処理した飼料用玄米を 25%混合した対照区 (25%区)、30%混合した試験区 (30%区) を設け、経産牛 6頭を供試して、分娩前2週から分娩後 10 週まで 1 区 3 頭配置して飼養試験を実施しました。
2. 30%区の体重当りの乾物摂取量および体重変動は、分娩後の各週次において 25%区と差がなく推移し、泌乳前期に飼料用玄米の混合割合を 30%まで高めても採食性に問題がありませんでした。
3. 30%区の乳脂肪率は期間を通して 25%区のそれより高く推移する傾向が認められましたが、乳量および他の乳成分率は、分娩後の各週次において 25%区と差がありませんでした。
4. 30%区の乳中尿素窒素は、期間を通して 25%区より低く推移しましたが、その値は正常で、分娩後 10 週間のルーメン内容液性状や血液性状は、両区間に差はなく正常範囲でした。



図1 イネWCS混合発酵TMRの配合割合



写真1 給与試験状況

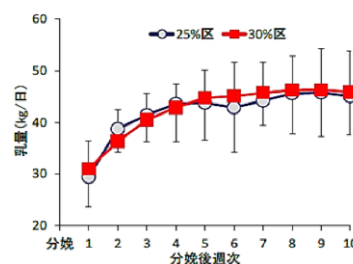


図2 乳量の推移

☆ 活用面での留意点

破碎玄米を乳牛に給与する場合は、馴致期間を 1 週間以上設けたうえ、ルーメンアシドーシスの発生を注視しながら段階的に増給して下さい。詳しくは、三重県畜産研究所大家畜研究課 石崎雄介 (TEL : 0598-42-2029) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)